

「言語文化」と東北地方

～暗いイメージを塗り替えよう～

シンキング・バーズ
日本語研究班

ボクたちの 「言語文化」フィールド

●日本語を創り続けた「近代文学」

ボクたちは、英語の Language に対応する日本語を「言語」としています。「ことば」が一つひとつのことばを指す Word に近いイメージなのに対して、「言語」は、大きな括りのようなイメージです。日本語と外国語のように種類を表す括り、「言語環境」「言語生活」「言語活動」ように、ことばのアクションに関わる括りがあります。

ボクたちが「言語」を大切にするのは、「言語文化 (Language Culture)」を考えるからです。ご承知のとおり、日本の言語文化には、長い歴史があります。平安文学に始まり、時代の移り変わりと共に、数々の作品を残して来ました。明治時代以降は、日本語を作るという側面を持ちながら、「近代文学 (Modern Literature)」を発展させました。日本語は、「近代文学」と共に発展したと言っても過言ではありません。

●震災以降の東北地方の「言語文化」

東 日本大震災を経験して以降の東北地方は、残念ながらその現状や推移を伝える日本語で、暗澹としたイメージを表現し、表現されて来ました。事実としての被害状況

やいわゆる「復興」の推移を伝えることは、確かに大切です。また、当時の様子を歴史に留めるために、どこで、誰が、どんな体験をし、どんな時間を過ごしたのかを伝えることも大切です。それも、東北地方を伝える「言語文化」のひとつです。



●「文学」を超える言語文化

でも、ボクたちは、そういう東北地方の「言語文化」に、不甲斐なさを感じます。「言語」が復興しなければ、いつまで経っても、暗澹としたイメージが、つきまといまわると感じるのです。

ボクたちの考えでは、「言語文化」は、「文学」とイコールではありません。近年の日本文学は、商業化された文学という要素が強く、エンターテインメント化が進んでいる、とボクたちは認識しています。「売れる文学」が求められる中で、地盤沈下を感じます。

ボクたちは、「言語文化」の商業化やエンターテインメント化を否定はしません。でも、「言語文化」を「文学」だけに求める時代は、すでに終わっていると考えています。

ボクたちの「ことば座農場 (ファーム)」は、広い「言語文化」のフィールドです。明るく、のびのび育つポジティブなことばたちを、東北地方の大地に吹く涼やかな風と共に、多くの人に届けて行きたいのです。

(2017年8月22日)

シンキング・バース新書

ボクとワタシの日本語診断
「言語文化」と東北地方

2017年8月1日（初版）発行

著者：シンキング・バース
日本語研究班

発行者：遊佐 芳泰

発行所：**シンキング・バース**

〒021-0821

岩手県一関市三関字神田105番5号

電話／FAX 0191-23-0724

※この論考の著作権は、図表を含めてシンキング・バースに帰属しています。複写、無断転載、無断転用は固くお断りします。